

## 立川タクロス

JJ1SXA/池

「立川が熱い」第4弾です、立川初の超高層ビル「タクロス」のことだ。

当初は、昨年（2016年）7月の完成予定だったが、設計変更等で1年延期されていたがいよいよ完成だ。

都心並みにこんな超高層ビルが、続々誕生するかと期待したいところだが、そうは問屋が下さない、立川は陸上自衛隊の基地があり、航空機の滑走路があるため高さ制限が厳しいのだ、航空法で、制限されるのは大きくは3種類で、飛行場の前方、後方の「進入表面」、飛行場の両側などの「転移表面」と、飛行場の半径1,500mの円内に「水平表面」があり、この範囲内の建物の高さは45mを超えて建設できないとなっている。

航空法で市中心部の高さが制限される中、更に、市は3月から新たに市域の絶対高さ制限を強化した、景観維持も睨んでいる。

「タクロス」はこの条例の成立前であり、かつ、前記の「水平表面」からわずかに外れているのが幸いし、超高層ビルが実現できたのだ。

高さ、約128mは、かなり高く、かつ他に超高層ビルができないということと相俟って、一際目立つ、新しい立川のランドマークだ。

「タクロス」は大型複合施設だが、この名前は、多くの人が変わり、賑わいが生まれる場所という思いを込めた「cross=クロス」に、立川と多摩をリードする施設になって欲しいとの意味で、両方の頭文字の「タ」をつけて命名された。

地下2階、地上32階建てで、延べ床面積は約59,000㎡、地下は駐車場で2階が駐輪場、1階に地元の飲食・物販の店舗と市の施設、3階から7階に核テナントの「ヤマダ電機(6,500㎡)」が出店、9階以上は野村不動産の「プラウドタワー立川」（高級マンション）319戸が入る（部屋はすでに完売のようだ）、駅南北を結ぶ新しい自由通路や交流広場を整備し、新しい改札口も設けられた。

「ヤマダ電機」の出店で、「ビックカメラ立川店」、「ケーズデンキ立川店」との競合が激しくなり、家電量販店激戦区となりそうだ、客にとってはうれしいことだ。

昨年2月には、大型ディスカウントショップ「MEGA ドンキホーテ立川店」が開店し、図書館より図書館らしい本屋として、立川エリア最大級の店舗面積約3000㎡に裏打ちされた、他に負けない豊富な蔵書量（推定100万冊）、立川周辺エリア（教育機関）を意識した専門書の充実とエリアには無い児童の座り読みコーナーや読み聞かせコーナーを設置した大型書店「ジュンク堂書店立川高島屋店」も開店している。

JR中央線、南武線、青梅線と多摩モノレールの4路線が乗り入れる商都立川は、まだまだ発展して止まないようだ、戦前、戦中は軍都、戦後は基地の街、農地接収の砂川闘争で知名度を上げた、そんなかつてのイメージから大きく脱皮した。